



第56号
新城市民病院総務課
新城市字北畑32-1
Tel 0536-23-7852
Fax 0536-22-2850

被災地へボランティア旅行

東日本大震災が発生してから4ヶ月以上経った今でも、避難所生活等、厳しい生活を送っている方がたくさんいます。

そんな方たちの少しでもお役に立ちたい、自分でき

ることはないかと考え、病院共励会（職員会）で東北ボランティア旅行に行ってきました。

17名の職員と家族が参加し、7月22日（金）の夜に市民病院を出発、23日（土）の朝に宮城県亘理郡山元町に到着しました。



山元町は宮城県の南部に位置し、震度6強の地震と大津波により沿岸部は壊滅的な被害を受け、全体で3千棟以上の家屋が全半壊しました。現在は瓦礫の撤去がほぼ終わり、家に戻って再び生活する



積み上げられた土嚢

ためのお手伝いをしてきました。作業は側溝掃除で、泥をスコップで土嚢袋に詰めたり、土嚢を一箇所にまとめるなどの単純作業でしたが力のいる仕事でした。

9時から15時まで行い、右の写真のようにたくさんの土嚢を積み上げました。

怪我人や体調を崩す人が出ることなく、無事作業を終了し、24日（日）の朝に病院へ戻ってきました。

この活動写真は8月に中央処置室前の壁面ギャラリーへ展示する予定です。ご来院された際には是非ご覧ください。



災害に備えて

エマルゴトレーニングを実施

7月10日（金）、災害医療に力を入れている富山県立中央病院と金沢医科大学病院の医師や看護師など、合計13名の講師をお招きし、エマルゴトレーニングを行いました。

これは災害や事故の現場や個々の負傷者の状況を設定した複数のマグネット付き絵札を使い、それぞれの患者に対する応急救護活動、搬送活動、医療機関への受け入れ等をシミュレーションするもので、この地方では行われていません。



全体の様子

負傷者や搬送される人数、時間等の設定について講師から伝えられ訓練が始まりました。傷病者を表すマグネット付き絵札を、災害現場や救護所、病棟、検査室、災害対策本部に見立てたそれぞれのホワイトボードに移動させていき、最後に正

しく対応できたか確認しました。

訓練会場はまるで本当に災害が発生したかのような雰囲気、緊張感に包まれていました。

参加した50名の職員は、災害医療の流れを再確認し、情報伝達の難しさを実感していました。

エマルゴトレーニングで学んだことは年2回行われる災害訓練にも活かし、災害医療の向上に努めます。



救急外来に救急隊から受入要請の電話が入ってきました



病棟



災害対策本部



救急外来

ご意見ありがとうございます

当院で設置しているご意見箱に寄せられたご意見の一部を紹介し、回答させていただきます。

ご意見

お世話になっております。毎日気になることがあるので記入させていただきます。

部屋の掃除がされてないように見えます。ベッド回り、机の上、窓、床等ほこりが目につきます。週に何回くらい掃除をするのでしょうか。

拭き掃除もしていただけたら部屋がきれいに感じます。

回答

ご意見ありがとうございます。

不愉快な思いをさせて申し訳ありませんでした。

窓ガラス清掃は年2回ですが、床清掃は委託業者が、ベッド回り等は看護助手（病院職員）が基本的に毎日清掃を行っています。そのため、清掃の仕方に問題があると思いましたが、委託業者や看護助手に教育・指導を行いました。現在は改善されたと思いますが、もし気になることがありましたらお気軽にお申し付けください。

ご意見

看護師さん始め、働いている皆さん、親切丁寧、そして迅速な行動に感謝します。厳しい経営状況の中でこそ大切なことであると思います。

奥三河の基幹病院として重要な位置づけをされている病院、救急医療体制の充実強化を望むものです。

人口減少の市において、人口増を図ることが重要、若者の定住には出産できる施設の対応（産婦人科）復活を望むもの一人です。

回答

ご意見ありがとうございます。

救急医療につきましては、総合診療科医師の増員や整形外科常勤医師の採用により救急収容率が上昇傾向にあります。今後、救急体制の充実に向け医師招聘に努めてまいります。

お産の受け入れについては、産婦人科医師及び小児科医師の招聘が必要であり、特に産婦人科医師の招聘は全国的に大変厳しい状況にあるため、早急に解決するのは困難であることをご理解ください。

なお、6月にしんしろ助産所が開設しました。お産に関しては、ローリスクの経産婦さんが対象となりますが、聖隷三方原病院と連携し、産科オープンシステムを利用した分娩ができるようになりました。